

Vision 5

学内リソースの結集によるシナジーの最大化



本学のブランド価値の1つである総合大学としての価値創造のために、組織間連携の強化により、本学のリソースを結集させてその力を最大限に発揮する。具体的には、DX推進によって業務と組織を最適化し、教育研究現場の自律的な予算執行と全学的な意思決定の迅速化や各種リソースの共有・有効活用を両立させる。また、附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針を明確化し、総合学園体制を構築する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針が明確化され、総合学園体制が構築されている
- ◆ 業務効率化の観点から組織が再編・統合され、重複業務や重複投資がない
- ◆ 全学的、組織横断的な意思決定が迅速化されている
- ◆ キャンパス間の連携体制が最適化されている
- ◆ 事業計画と連動した予算の優先配分が実現している
- ◆ 各予算単位の自律的な予算執行により、業務がスクラップ&ビルドされている
- ◆ 教員と職員とが目標を共有し、学校法人全体の発展に向けて協働できている

中長期戦略

戦略 5-1 附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針の明確化

戦略 5-2 DX推進に基づく業務最適化と組織再編

戦略 5-3 収支構造の見直し

戦略 5-4 教職員活動のシナジーの創出

戦略 5-1

附属中学校・高等学校の位置づけや運営方針の明確化

Chuo Vision 2025で掲げられた総合学園という概念をより明確にするとともに、大学と附属学校の関係について、法人全体としての統合性と各附属学校の独自性のあるべき調和点を探る。また、附属学校のそれぞれの課題に応じた施設対応などを検討する。

中長期計画

法人と各附属学校との相互連携による危機管理体制の整備

各附属学校による教育目標や経営方針の再確認を踏まえた将来計画の策定

各附属学校による校内業務の最適化とDXの推進

各附属学校の将来計画を踏まえた法人としての附属政策の策定

戦略 5-2

DX推進に基づく業務最適化と組織再編

各組織における自助努力的な業務の効率化にとどまらず、DX推進に基づき、全学的見地（事業会社を含む）から業務最適化と組織・委員会等の再編を実施する。これにより、重複業務やキャンパス間の物理的距離等による無駄を徹底的に省くとともに、全学的・組織横断的な意思決定を迅速化させる。

中長期計画

利用者視点のワンストップサービスの構築による業務最適化

業務執行の効率化に向けた組織再編

各種委員会の抜本的な見直しによる統廃合の実施

戦略 5-3

収支構造の見直し

各予算単位による自立的・自律的な予算執行制度を確立し、各予算単位において恒常的に業務のスクラップ&ビルドが可能な体制を構築する。予算単位の再編等を通じて法人全体の経費を適正化し、中長期事業計画と連動した予算を確保していく。教員人件費枠や独立会計制度のあり方等に関する改善についても、引き続き取り組む。

中長期計画

予算制度の見直し

健全財政維持のための人件費構造の見直し

会計単位の見直し

戦略 5-4

教職員活動のシナジーの創出

本学が掲げる目標を教員と職員が共有し、全学的・組織横断的な意思決定を迅速に行い、総合大学として新たな価値を力強く創出していく。本学全体の活性化、新たなブランディングに資するよう、教育、研究、社会貢献、管理・運営業務等、多様な教員の活動を適正に把握することを可能にする、本学固有の教員活動評価（アセスメント）等の実施について検討する。また、SD活動を通じた教職員の能力開発により、全学的なマネジメントにあたる行政職を担う教職員の育成や各種会議体への職員の参画を進め、教職協働の実質化をはかる。

中長期計画

全学的な意思決定の実質化と内部統制システムの運用・検証

教員活動評価（アセスメント）の導入検討

専任職員の役割の実質化

組織間連携によるシナジーの最大化